

令和2・3・4年度事業



自然回帰・椿守の森づくり事業(森林の整備と連携して行う普及啓発活動)

島根県邑南町



事業概要

本事業は、令和元年度からの継続事業で、放置された針葉樹林を整備し、植樹用地を拡張する取り組みである。ボランティア・地域と都市住民の交流の場として、以下の活動を実施。①森林整備、②整地と作業路設置、③残木整理、④新たな植樹地へのツバキ苗300本の植樹、⑤植樹を通じた緑化事業によるSDGs目標への貢献活動の啓蒙、⑥活動の広報を通じた緑の募金活動推進。

事業成果

昨年に続き、参加してくださる方もいた。お寺の住職と親交のある歌手の加藤登紀子さんにも植樹に参加していただき、新聞の取材を受け、ツバキの植樹活動が大きく記事

になった。暗かった裏山も2年にわたって整備し、植樹することで明るくなり、お寺にきた人が散歩できるような山になった。

事業をよく知る関係者の声

- ・夏など暑い時期の下刈り作業や苗木の水やりなどの人員確保が課題。(住職)

参加者の声

- ・人々がもっと森に関心を持ち、森を守っていくような活動がさらにひろがればいい。(シンガーソングライター、作詞家、作曲家、女優)
- ・ツバキがこれからも一層増え、豊かな森へと育っていくことを願っている。(住職)



階段脇には前年度に植樹したツバキが育つ



植樹か所の地ぢえ



植樹作業



参加した皆さん

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：0.04ha
植付本数：300本
地ぢえ：3回
調査・縄張

参加者数

計：12人

樹種

ヤブツバキ

モンゴル国における環境教育を目的とした環境保護林造成事業

モンゴル・ウランバートル市ソングノハイルハン21地区



事業概要

目的は、次世代を担う若者に環境保護の重要性を伝え、沙漠化防止の主力であることを理解してもらうための植林活動を行う。活動内容は、①協力者の選定、②関係者と柵と柱の設置、③植林用の穴掘り、④苗木の選定、購入、運搬、⑤植林と水やり、⑥苗木の活着率を上げるための管理方法の指導。

事業成果

当事業の協力者の多くは家族を連れて参加した。植林作業は家族単位で行い、作業手順を注意深く聞き、一本一本を丁寧に植えることができた。苗木をいい状態で植え、管理を丁寧に行うことで活着を確実にすることができた。その後の確認作業では、苗木の活着率は90%以上となり、モンゴルでの植林としては非常に良い成果が得られた。

参加者の声

- ・今回は9歳と12歳の子ども2人と植林作業に参加した。コロナ禍で家で携帯ばかり見ている子どもには大変困っていたが半強制的に連れてきたら、子どもたちも作業を気に入って、良かった。これから水やりには毎週来る予定だ。(30代男性)
- ・モンゴルには「1本植林することで前世の福を築き、2本植林すると今世の福を築き、3本植えると来世の福を築ける」という諺がある。私は20本植えた。これで家族も含めて大丈夫だ、と冗談を交えながら木が活着することを願った。隣で作業していた人が「苗が活着しなかったら地獄に落ちるみたい」というので、「それは大変だ！水やりをしっかりとしなければ！」と言いながら植林を楽しんだ。(20代男性)



苗木の保護のために柵・柱の設置



家族で参加。植え穴を掘って植林



植栽後の水やり



活着した苗木

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：5ha

植付本数：1,000本

その他：協力者の選定、柵・柱の設置

樹種

ニレ、アオヤナギ

八王子市寺田緑地の整備・緑化事業

東京都八王子市



事業概要

大径木化と笹ヤブ化が進んだ里山の再生と生物多様性回復、住みやすい生活環境づくりを目指し、居住地都市の住民を軸にした市民参加型の整備・緑化事業を行った。里山(緑地)の整備として、近隣住民の散策路となっている脇の笹藪の刈り取りと、形成不良木や枯損木の伐採を実施した。また、伐った木を杭として利用したストッカーを林内に設置した。上記の整備活動で林床植生と林内の見通しの回復、住みやすい生活環境づくりを実現させた。里山緑化は、地元要望もありヤマザクラの植林を計画したが、緑地に植林は難しいとの回答が緑地管理者からあり、断念した。

事業成果

数十年手入れができておらず荒れていた緑地に手を加え

ることでのビフォーアフターが著しく変化した。この活動に関心を持ち始めている住民も現れ、数年後は地域の手によって手入れされていく機運ができていく。

事業をよく知る関係者の声

- ・里山緑地は、人の手を加えていくことで維持されていくことを再認識できた。(ボランティア指導者)
- ・手入れが進み、地域で暮らす住民に安心感を提供できるように変化してうれしく思う。(自治会役員)

参加者の声

- ・人の生活環境に身近な場所でボランティアを行うと、人の笑顔が間近に見られて励みになる。(40代女性)
- ・ヤブをドンドン伐り拓いていく作業がとても楽しく夢中になった。(20代男性)



笹ヤブの刈り取り



様々な立場の人たちが大勢参加



散策路の整備



作業前後写真

実績とりまとめ

作業内容

除伐面積：0.7ha
散策路整備：300m

参加者数

都内：309人
計：309人

七隈の森を整備して、地球温暖化を防止しよう

福岡県福岡市



事業概要

地球の温暖化の要因の一つである、大気中の二酸化炭素を減らすため、身近な自然が残る七隈の森を育てるとともに、省エネなど家庭でも取り組める活動を学ぶ。主な活動は、放置竹林の整備で、タケの伐採、枯れ木・枝の整備、植樹、落ち葉や枯れ枝を利用した堆肥作りを行う。

事業成果

落ち葉や枯れ枝を利用して堆肥化することで、炭素を森に貯蔵ができている。また、活動前よりも土壌生物や虫、鳥が多く確認でき、より豊かで生物多様性にもつながる森になってきている。子どもやその保護者にたくさん参加いただき、自然の大切さや森の役割を伝えることができた。私たちも自然について学びなおし、SDGsを意識した活動となっている。福岡市から活動が評価された。

事業をよく知る関係者の声

- ・福岡市や福岡市緑のまちづくり協会から活動の視察があり、子どもや地域と一緒に活動をしていることなどを評価していただいた。今後は間伐の実施が課題となっている。また、間伐を行うことで下刈りが必要になり、継続的な活動の維持とボランティア受け入れや確保が必要。安全面についても、倒木等の危険性や草かぶれ、虫刺されへの対応について研修を通じて、スタッフや参加者にも伝えていく必要がある。

参加者の声

- ・身近に自然があることを知った。
- ・山の仕事の大変さが分かった。
- ・コロナ禍の活動でマスクしたままの活動で息苦しかったが、参加後に怪我やコロナ等の感染症がでなくてよかった。



タケを伐って竹林整備



落ち葉や枝を使用して堆肥作り



植樹活動



現地の枯れ木、タケを使用して階段整備

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：0.3ha
 植付本数：53本
 下刈面積：1.1ha
 除伐面積：2.6ha
 間伐面積：0.6ha
 森林資源活用
 （堆肥用落ち葉）：2.9ha
 その他：自然観察、ゴミ拾い

参加者数

県内：260人
 県外：4人
 計：264人

樹種

クワ、アジサイ

企業との協働による「高梁美しい森」森林整備事業

岡山県高梁市



事業概要

高梁市の市有林の一部「高梁美しい森」内において、ENEOS社、市、フォレストフォーピープル岡山 (FFPO) と協働による、森づくり・森林体験活動を通じたSDGsの実践に取り組み、自然災害の増加や自然環境・生物多様性の保全という問題に対しても、流域思考に基づき複合的に取り組むことで、持続可能な自然共生型地域社会の構築への寄与を目的とする。今期は下刈り、雑木林整備、憩いの場の整備などを行うとともに自然体験学習を実施し、自然史に親しみ自然を育む心の醸成に通ずる活動を行っている。

事業成果

活動人数が減り、活動内容や範囲が限られ、広域な森づくりがなかなか進まずにいたが、令和6年度よりENEOS社からの希望で各回ともにコロナ禍前の参加者数に戻り、より活発な活動の実施が可能となった。また、他の団体とのネットワークを利用し、活動人員を確保し、当事業におけ

る活動実施はもとより、その効果をより多くの人に伝えることが可能となった。

事業をよく知る関係者の声

- ・事業期間中に急遽活動規模がコロナ禍以前に戻り、スタッフ人員確保の対応に苦労したが、他団体の協力を得ることで実施することができた。本団体と企業側及び参加者との事業目的の認識のズレが課題であり、企業側が目指す森づくりビジョンを確立し、単なる楽しい森づくり作業というだけではなく、作業を通して将来への森の活用について楽しくイメージできる環境づくりと意識づくりが必要。(ENEOS及びFFPO担当者会議にて)

参加者の声

- ・日頃の職場での垣根を越えて作業することは、社内外問わずつながりを深めることができ大変良い機会だ。作業の前後を見て達成感があり、とても気持ちの良い一日だった。(ENEOS参加者)



作業前のオリエンテーション



下刈り



灌木除去



森の葉でトートバッグに葉拓作り

実績とりまとめ

作業内容

下刈面積：0.95ha
間伐面積：0.05ha
その他：ENEOSみらいの森森林整備活動

参加者数

県内：380人
計：380人

実践！災害に強い森づくり～がんばろう！人吉球磨～

熊本県熊本市



事業概要

熊本県人吉・球磨地域を襲った「令和2年7月豪雨」の復興を目指し、災害に強い森づくりを実践することが目的である。主な活動は、森林・林業・木材を専門的に学習する林業高校生が、①学校演習林における森林環境保全活動（間伐・下刈り・作業道整備）、②間伐材を活用した木育活動を実践する。

事業成果

演習林を活用し、林業を実践する中で木材を生産し、木材を活用してものづくり体験や木育に繋げ、生徒自身が森林・林業・木材への理解を深めるとともに、地域の子もたちなど幅広い方々に理解を深めていただくことができた。また、県外にも足を運び、専門機関における分析で科学性を向上させるとともに、大学やNPOとの連携により地域の活性化にもつなげることができた。

事業をよく知る関係者の声

- ・スタディツアーの参加者に、災害に強い森づくりや森林の保水力などの役割の重要性を伝える上で、林業高校生が果たす役割は大きい。今後も継続して連携した研究活動を実践していきたい。（東京大学 教授）
- ・皆さんは、木を育てるだけでなく、参加者の心を育む活動が実践ができている。この緑を育む心が、将来の森林環境を育む礎となっていく。（京都大学 教授）

参加者の声

- ・ヒノキってこんなに良い香りがするんだね。木を使ったものづくり楽しい。（木育活動に参加した子どもたち）
- ・全国の皆様から応援していただいたことで、私たちだけではできない貴重な経験や出会いを得ることができた。将来林業高校の教師となり、森づくりの心のバトンを後世につなげていきたい。今回いただいた支援への感謝の気持ちを忘れずに、学び続けていきたい。



間伐研修



地域と共に植樹活動



大学・NPOと連携したものづくりフェア



写真洗浄と復興祈願フォトスタンド寄贈

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：2ha
植付本数：2,000本
下刈面積：2ha
間伐面積：3ha
森林資源活用（木育活動）：50回
作業道開設：40m

参加者数

県内：1,085人
県外：300人
計：1,385人

樹種

クヌギ、広葉樹苗

西表島クリーン作戦を通じた緑化促進事業

沖縄県竹富町



事業概要

本事業の活動対象地であるユツン河口のマングローブ群生林は、漂着ごみの影響で幼木の成長が懸念されてきたことから、海洋漂着ごみ清掃活動と植栽の組み合わせによる緑化促進活動を実施する。主な活動は次のとおり。①行政、関連協会や財団との協議活動、②住民との情報交換や共有（地域ネットワーキング）、③緑化促進活動「クリーン作戦と環境学習の会」、④活動運営ための指導（運営リーダー育成・啓発・ノウハウ移転）。

事業成果

木道補修により、海岸やマングローブ林までアクセスが良くなった。運営マニュアルを使うことで、若い世代や新しい参加者と活動方法を共有でき、海岸清掃・ごみ運搬・植栽活動の作業を効率よくできるようになった。環境学習により、漂流による海洋漂着ごみの幼木や生態系への影響を知り、緑化促進と保全の大切さを学ぶことができた。

事業をよく知る関係者の声

- ・ 今後は、各参加者が様々な条件下で作業できるよう内部での研修等が必要ではないか。（ボーイスカウト関係者）
- ・ 植栽や運営については、県外からの専門家に頼らないための各種マニュアルがほしい。（住民、保護者）
- ・ 環境学習のテーマについては、定期的に新しい情報がほしい。専門家、有識者、環境活動家を島や県外からよびたい。（保護者、公民館）

参加者の声

- ・ プロジェクトだと交流や学習の要素があるため、参加して学ぶこと、知ることが増えるように感じた。（50代保護者）
- ・ 現状や情報を環境学習へ十分に反映した緑化活動になるとありがたい。（保護者）
- ・ 八重山諸島は自然が美しい。保全し、次の世代に残してあげたい。（20代観光客、40代ボランティア参加者）



活動内容のレクチャー



木道を通してマングローブ林



マングローブの胎生種を植栽



漂流したごみの清掃

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：21㎡
 植付本数：200本
 樹勢回復：50本
 森林資源活用：20本
 作業道修理：400m
 海岸清掃：2回
 環境学習：2回
 運営指導：2回

参加者数

県内：65人
 県外：10人
 計：75人

樹種

マングローブの胎生種子

アマゾン森林火災先住民族消防団事業

ブラジル・マット・グロッソ州周辺18集落



事業概要

アマゾンで年々深刻化する森林火災の防止、消火のために、現地住民であるインディオの若者が中心となり「消防団」を組織し、主体性を持って森を火から守ることを目的とする。活動は以下のとおり。①インディオ消防士たちの消火、防火の講習を実施、②焼畑の火入れの際、周囲に5m位の緩衝帯を設け、火入れの延焼を防ぐよう配慮、③密猟者が野営をし、火の不始末や放火などで火災が発生しないよう、地域の巡回、監視を実施、④大規模農牧場での草地野焼き等による先住民保護区への延焼を防ぐため、管轄する町役場及び議員等に協力体制を仰ぎ、緊急時に備える。

事業成果

住民であるインディオ若者が自分の意思で命懸けで森を守る姿勢が高い評価を得て、この主体性が他者にも影響。2022年IBAMA（ブラジル環境庁）のプレヴィフォーゴ（森林火災対策先住民族消防団プログラム）のメンバーとして

当事業に従事している消防士10名が選ばれ、正式な資格を習得し、消防活動に従事。2023年も新たに6名が選ばれ、消火活動に当たっている。当団体による地道な支援事業が評価され、大きな意義を確信した。

事業をよく知る関係者の声

- ・ピアラスでの講習を終了し、各集落に戻った消防士が中心になって自衛団を結成し、周辺の監視を開始した。パトロール中に不法侵入者の摘発も行い、結果、熱帯林保全、活性化再生にも繋がると感謝の意を表された。熱帯林を守るこの消防士は次世代にとっても憧れになり、大人になったら消防士になりたいという子どもが増えた。また、火災現場での医療従事者として女性の消防士も一人加わった。

参加者の声

- ・消防道具や防御服の消費が早い。予備の道具等、常にストックしてほしいとの要望があり、その資金的な調達を多岐に渡り考慮する必要がある。



消防の講習



消防機材のメンテナンスをする消防団員



消防活動に入る準備をする消防団員



火災現場に入る消防団員

実績とりまとめ

作業内容

活動面積：65万5,000ha
(18集落)
防火・消火の講習：1か月
各集落へ戻り、自衛団を作り
消火・防火活動：2か月
不法侵入の監視、消火活動：9か月

参加者数

研修受講者：30人
各集落の自衛団：約180人